

第2回(R4.10.7)教育振興基本計画策定委員会 委員からの意見に基づく要検討事項一覧

番号	発言要旨	反映状況	該当する ”まなびの柱”等	素案の該 当ページ	担当課
1	一般的に市町村の教育振興基本計画は、高校生や大学生といった青年を支援する取組が充実していない。前回、取組を盛り込んでいただきたいとお願したが、例えば、社会福祉協議会やNPOなどの団体が、そのような対象を支援する場を蒲郡市に作るようとしている計画があると聞いている。市の取組で全てやろうとすると難しいので、市民と一緒に高校生や大学生の活躍する場をつくる、そのような表現で取組を計画に盛り込めないうかが検討してほしい。	52ページ 学生や若者と連携したボランティア活動の機会の創出に努めます。 を追加しました。	(19)社会教育の推進	54	生涯学習課
2	教育目標6の「快適に学ぶことができ、教員の働きがいがある」は、教員を対象としているが、社会教育においても子どもたちと関わっている指導者がいる。このような指導者のことも取り上げてほしい。	社会教育施設等の設備等の充実により、働きがいについての支援をします。	(19)社会教育の推進 (24)学校施設・設備の充実 (25)学校における働き方改革の推進	55	生涯学習課 教育政策課 博物館
3	昨今、教員の働き方の問題が非常に大きく取り上げられているということで、このような記載になっているが、学芸員や図書館司書、児童クラブの指導員など、教育に関わっている方たちへの支援や環境整備がニュアンスとして盛り込まれているとよい。	基本理念 「子ども、教職員、家族、地域で暮らす人や働く人が、多様な出会いを通じてともに学びあい、ともに生きていくことが大切です。年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わりなく尊重しあえる人を育み、誰もが蒲郡市で学んで良かったと思える教育行政の創造を目指します。」としました。	第1章 基本構想 1 基本理念	15	事務局
4	基本理念に「子ども、教員、家庭、地域住民」という表現があるが、例えば企業との連携もあるので、住民に限定しているのはどうかと考える。また、学校を核としたまちづくりというものが今後検討されていく方向性と聞いており、その方向性との整合を図ることも必要ではないか。	基本理念 「子ども、教職員、家族、地域で暮らす人や働く人が、多様な出会いを通じてともに学びあい、ともに生きていくことが大切です。年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わりなく尊重しあえる人を育み、誰もが蒲郡市で学んで良かったと思える教育行政の創造を目指します。」としました。	第1章 基本構想 1 基本理念	15	事務局
5	基本理念には、企業や関係機関など、ステークホルダーを含めて表現する必要があると思うが、学び合い、ともに生きていくという意味では、“人”で表現を揃えてもらいたい。また、基本理念の文章の締め表現が「蒲郡市に住んで良かったと思える教育行政の創造を目指します。」となっており、この締め方でよいのか。やはり最後は“育ち”という表現で締めた方がよいのではないか。	基本理念 「子ども、教職員、家族、地域で暮らす人や働く人が、多様な出会いを通じてともに学びあい、ともに生きていくことが大切です。年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わりなく尊重しあえる人を育み、誰もが蒲郡市で学んで良かったと思える教育行政の創造を目指します。」としました。	第1章 基本構想 1 基本理念	15	事務局
6	基本理念の文章の締め表現は、「蒲郡市で学んでよかった」などの表現がよいのではないか。	基本理念 「子ども、教職員、家族、地域で暮らす人や働く人が、多様な出会いを通じてともに学びあい、ともに生きていくことが大切です。年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わりなく尊重しあえる人を育み、誰もが蒲郡市で学んで良かったと思える教育行政の創造を目指します。」としました。	第1章 基本構想 1 基本理念	15	事務局
7	そして教育目標2の「子どもの夢や理想を育み、個々の能力を最大限に伸ばすことができる」に「質の高い幼児教育と幼保小の連携強化」とあるが、義務教育の観点からいくと小中連携もあるし、さらに上の教育、最終的には大学との連携等も視野に入れる必要があるのではないか。	15ページ 幼保小の連携強化 22ページ 高等学校や大学が立地する中学校区については、必要に応じて学校運営協議会への関わりを持ちながら、連携強化に努めます。 を追加しました。	第1章 基本構想 2 「まなび」のあり方(教育目標) (1)地域と学校の連携による目指すべき学校教育の実現 (3)必要な資質・能力を育む教育課程の推進 (12)特別支援教育の充実 (14)幼児教育の充実	15, 2 2, 42	学校教育課 生涯学習課
8	先ほどの小中連携、高等学校や大学との連携は、市としてどこまでの連携を取り上げていくのか、一定の整理をした方がよい。学校を核とする地域づくりは、コミュニティスクールや地域学校協働活動の中で言われており、そうした地域づくりのことをスクールコミュニティと呼んだりもする。学校が地域づくりの主体となっていくとか、学校をセンターとして住民による活動がかなり活発になっていくとか、かなり高度な取組が求められるものでもあり、蒲郡市としてどこまでを目指すのかということを検討する必要がある。	15ページ 幼保小の連携強化 22ページ 高等学校や大学が立地する中学校区については、必要に応じて学校運営協議会への関わりを持ちながら、連携強化に努めます。 を追加しました。	第1章 基本構想 2 「まなび」のあり方(教育目標) (1)地域と学校の連携による目指すべき学校教育の実現 (3)必要な資質・能力を育む教育課程の推進 (12)特別支援教育の充実 (14)幼児教育の充実	15, 2 2, 42	学校教育課 生涯学習課
9	地域や社会の課題として「グローバル化に伴う多文化共生等に向けて」という課題を取り上げているが、教育目標の中に多文化共生という表現やそのような視点が盛り込まれていないので、国際化への対応を教育目標に加えるべきではないか。	15ページ 本市は、開かれた学校づくり等を通じて、地域と学校の連携・協働体制の強化を図りつつ、地域の多様な主体が教育に参画し、地域とともに創っていく地域共生社会の実現を目指します。 を追加しました。	第1章 基本構想 2 「まなび」のあり方(教育目標)	15	事務局
10	教育目標の1「地域を愛し、地域の魅力を伝え貢献することができる」に地域づくりという視点が入ってくると、外国にルーツのある住民との共生も入ってくるし、「地域共生社会」という表現を用いれば、高齢者や障がい者とともに生きるという意味も入ってきて、地域づくりの目標となる。地域づくりを教育目標のどこかに盛り込むことを検討してほしい。	15ページ 本市は、開かれた学校づくり等を通じて、地域と学校の連携・協働体制の強化を図りつつ、地域の多様な主体が教育に参画し、地域とともに創っていく地域共生社会の実現を目指します。 を追加しました。	第1章 基本構想 2 「まなび」のあり方(教育目標)	15	事務局
11	教育目標の4「生涯にわたって学ぶ楽しさと、健やかな体・心を育むことができる」は、個人的な学びとか、個人的な利益のための学習ということではなく、大人として社会参加とか、地域社会を支えていく学び、或いはその育ちを目指す目標であるというニュアンスを盛り込んでほしい。	16ページ 本市は、人生100年時代に対応し、市民が生涯にわたり生き生きと社会参加し、地域に貢献する様々な活動に取り組めるよう、学びの楽しさを育み、生きがいづくりを支援するための社会教育環境等の充実を努めます。 を追加しました。	第1章 基本構想 2 「まなび」のあり方(教育目標)	16	生涯学習課
12	「まなび」の柱、「(3)地域と学校の連携による目指すべき学校教育の実現」と「(4)地域と学校が連携した開かれた学校づくりと学校への支援」の2つは、現状と課題が同じ文章であり、評価指標も【再掲】であることから、2つを分ける意味があるのか。	それぞれ整理させていただき、 (1)地域と学校の連携による目指すべき学校教育の実現 (2)地域と学校が連携した開かれた学校づくりと学校への支援 としました。	(1)地域と学校の連携による目指すべき学校教育の実現 (2)地域と学校が連携した開かれた学校づくりと学校への支援	22, 23	学校教育課 生涯学習課
13	「まなび」の柱、「(3)地域と学校の連携による目指すべき学校教育の実現」にはコミュニティスクールを、「(4)地域と学校が連携した開かれた学校づくりと学校への支援」には地域学校協働本部を、というように整理するとよいのではないか。	それぞれ整理させていただき、 (1)地域と学校の連携による目指すべき学校教育の実現 (2)地域と学校が連携した開かれた学校づくりと学校への支援 としました。	(1)地域と学校の連携による目指すべき学校教育の実現 (2)地域と学校が連携した開かれた学校づくりと学校への支援	22, 23	学校教育課 生涯学習課
14	前回会議の資料で体力テストの結果が出ている。愛知県は小学校の体力テストで男子が7年連続全国最下位であり、女子も最下位ということが少し前に話題にあがっており、蒲郡市はその県の平均を下回っている項目がかなりある。小学校の部活動が廃止され、今年度は中学校の部活動の地域移行という問題が大きく話題になっており、体力についてますます懸念される状況である。学力の面を含め、5年間の計画で学力・体力が向上するようなことが何かできないかと考えている。そのためには、多忙な教員の働き方について、部活の地域移行やICT活用など効率よく、余分な業務を切り取ることで、子供たち一人一人向き合せて、それも子供が楽しく学べるという、本来の業務の部分で何とか学力も体力も伸ばしてほしい。	①学校体育の充実による体力の向上 ②学校や地域におけるスポーツ機会の充実 ・子どもたちに専門的なスポーツの機会を提供するため、令和8年度までに休日部活動の地域移行完了を目指します。 を追加しました。	(21)学校体育・生涯スポーツの充実	59, 60	学校教育課 スポーツ推進課 生涯学習課
15	「まなび」の柱、「(22)学校体育・生涯スポーツの充実」は、学校体育と生涯スポーツを一つの柱に入れていることで、子どもの体力の問題が薄まっている印象がある。この「まなび」の柱で部活動をどうするかという大問題を取り上げた方がよい。	①学校体育の充実による体力の向上 ②学校や地域におけるスポーツ機会の充実 ・子どもたちに専門的なスポーツの機会を提供するため、令和8年度までに休日部活動の地域移行完了を目指します。 を追加しました。	(21)学校体育・生涯スポーツの充実	59, 60	学校教育課 スポーツ推進課 生涯学習課
16	部活動の問題は文化系の部活動の問題でもあるので、文化芸術活動に関する「まなび」の柱でも触れてもらいたい。	64ページ ・中学校部活動の地域移行を見据えつつ、地域における文化芸術活動の受け皿の拡大に努めます。 を追加しました。	(23)文化芸術活動の推進	64	学校教育課 生涯学習課
17	「蒲郡市市いじめ防止基本方針」は「蒲郡市市いじめ防止基本方針」に訂正が必要である。	修正しました。	(17)いじめへの対応の充実	43, 48	事務局
18	「⑤市立特別支援学校(小中学部)の整備」という施策があがっているが、この計画の5年間は検討の段階という位置づけであり、「整備」ではなく「検討」である。共生社会の実現と空白のない支援体制の確保というのが⑤のタイトルとなり、その内容として、市立の特別支援学校について調査研究を行うという内容の方が合っている。	39ページ ⑤市立特別支援学校(小中学部)の設置に向けての調査・検討 としました。 高等部に関しては、県の所管になるため、県に対して設置の要望をしていきます。	(12)特別支援教育の充実	39, 40	事務局 学校教育課
19	市立の特別支援学校については、小中学部だけではなく、高等部についても調査研究に取り組んでほしい。	高等部に関しては、県の所管になるため、県に対して設置の要望をしていきます。	(12)特別支援教育の充実	39, 40	事務局 学校教育課
20	スクールソーシャルワーカーの配置については、発達支援への対応だけでなく、貧困やいじめ、あるいは外国にルーツのある子どもへの対応など多岐にわたる取組であることから、関わりのあるそのほかの「まなび」の柱でも取り上げた方がよい。	(12)特別支援教育の充実 (17)いじめへの対応の充実 (18)不登校児童生徒への対応の充実 それぞれに反映しました。	(12)特別支援教育の充実 (17)いじめへの対応の充実 (18)不登校児童生徒への対応の充実	39, 40, 48, 49, 50	学校教育課
21	「まなび」の柱、「(23)健康教育・食育の推進」では、学校の取組のみの記載となっているので、保健センターなど学校以外の取組についても記載してほしい。	61ページ現状と課題に ・食育により、体づくりや豊かな心をつくるとともに、食を通じた地域づくりのために、食生活に関する啓発活動や地域との交流、食文化にふれる機会の充実やイベントの開催を行っています。 ・人生100年時代において、健康寿命に対する意識を高めていくための啓発活動やイベントを行っています。 を追加しました。	(22)健康教育・食育の推進	61, 62	学校給食課 保健センター
22	「(28)大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障」でも、学校の取組のみの記載となっているので、公民館や市民会館、図書館では、どのような災害対策に取り組んでいるのか、例えば、公民館では地域の人と一緒に防災訓練を行っているのだろうか。生命の海科学館では、来場者を含めた避難訓練をやっているのか、そういう社会教育施設についての記載をしてほしい。市民会館をよく利用するが、子どもと一緒に活動しているので、地震が来たらどこに避難するのだろうかとか、非常に不安になっており、市民会館で活動したら、避難場所はこことか、避難場所の目安を決めておいてもらえると活動しやすい。	71, 72ページ現状と課題 ・毎年、各学校の危機管理マニュアル等の見直しが行われており、危機管理マニュアルに基づき、訓練が実施され、その結果等を踏まえた検証・見直しが行われています。 ・各社会教育施設では、地震・火災・津波などを想定した避難訓練を実施しており、公民館の一部では利用者や地域住民が参加する訓練を実施しており、また、一部の学校は地域と連携した訓練を実施しています。 を追加しました。	(27)大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障	71, 72	生涯学習課 教育政策課 危機管理課
23	性の多様性に対する理解という課題は、学校だけでなく、社会教育の課題としても表現してもらいたい。	47ページ 学校教育並びに社会教育を通して としました。	(16)人権教育・多様性理解の推進	47	生涯学習課 協働まちづくり課

番号	発言要旨	反映状況	該当する "まなびの柱"等	素案の該 当ページ	担当課
24	「まなび」の柱、「(28)大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障」は、大規模災害に関する内容が薄い印象である。また「(29)学校安全・防災教育の推進」の施策の方針も、学校における危機管理マニュアル等に基づいてという方針がほとんどで、本来は地域と連携した防災対策について記載する必要がある。蒲郡市は海に面した市として、津波を含めた大規模災害への対策にもっと触れておく必要がある。	71,72ページ ・各社会教育施設では、地震・火災・津波などを想定した避難訓練を実施しており、公民館の一部では利用者や地域住民が参加する訓練を実施しており、また、一部の学校は地域と連携した訓練を実施しています。	(27)大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障	71, 72	危機管理課 生涯学習課
25	防災教育も人権教育も、社会教育と連動した課題と捉えた方がよい。	73ページ ・自主防災会などの活動を通して、防災に対する意識を高めていくとともに、市民一人ひとりが非常時に対する知識を深めていくことにより、市全体での防災教育を推進します。 を追加しました。	(16)人権教育・多様性理解の推進 (28)学校安全・防災教育の推進	47, 73	危機管理課 生涯学習課
26	「まなび」の柱、「(28)大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障」、これについても学校のことのみが記載されている。社会教育施設においても、感染症防止のための対応がとられていることを記載してほしい。また、生命の海科学館では対面でやっていた事業をオンラインで実施しているという実績もあるので、社会教育における感染対策も記載していただきたい。	71,72ページ ・公民館や科学館、市民会館などの社会教育施設では、「蒲郡市新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」に基づき対応しています。また、科学館では、オンラインでも見学・参加・体験ができるようコンテンツを整備しています。 を追加しました。	(27)大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障	71,72	危機管理課 生涯学習課
27	例えば、高齢者や障がい者など、ICTが活用できないと生活上不利になってしまうということもあるので、ICTの基盤整備は、やはり社会教育も含めて、市民全体を視野に入れていただいた方がよい。財政上の問題はありますが、例えば、公民館であるとか、今後整備される地域学校協働活動の中で、そこに行けば、ネットに繋がると、地域におけるICTのセンターを作っていくようなことも検討してほしい。	54ページ ・市民会館などの社会教育施設や公民館にはWi-Fiを設置し、インターネット環境の整備ができています。 を追加しました。	(19)社会教育の推進 (27)大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障	54, 71	生涯学習課 危機管理課
28	公民館がICTセンターになるべきだという議論もあり、わからないことがあれば公民館に行けば、教えてもらえるなど、情報弱者を支援できるような公民館に変わっていくとよいのではないかと。社会教育のICT基盤の整備についても計画で触れていただきたい。				
29	大規模災害時にICTを活用できる環境整備が重要であり、ICTの活用を総合的に検討してほしい。				
30	教育目標の「1」地域を愛し、地域の魅力を伝え貢献することができる」のところに記載しているアンケート結果が、文化財に関することのみであるので、それ以外のことも記載した方がよい。	20, 21ページのアンケート項目 ・あなたは日ごろ、地域活動に参加していますか？ ・多くの人が地域活動に参加するためにはどのようなことが必要だと思いますか？ を追加しました。	教育目標1「地域を愛し、地域の魅力を伝え貢献することができる」	20, 21	事務局
31	「まなび」の柱、「(5)郷土の文化財の保存と継承、活用と魅力の発信」の「③文化財の活用と魅力発信」の内容が薄い印象である。例えば、博物館資料をデジタル化してインターネットで発信したり。蒲郡市の文化財で、ホームページに載っているのはA4で1枚程度の情報であり、文化財をコンテンツ化してはどうか。	今回は記載が難しいため検討していきます。	(4)郷土の文化財の保存と継承、活用と魅力の発信	25	博物館
32	p.22の「(5)郷土の文化財の保存と継承、活用と魅力の発信」の現状と課題で「博物館において収集保管場所の確保が厳しいため、厳選して受け入れている状況」とあるが、資料を収集・保管することは博物館事業の根幹であり、積極的に資料を受け入れることができない状況は問題である。簡単に解決できる問題ではないことは承知しているが、解決にむけての手立てを「施策の方針」に入れてもらいたい。	25ページ ・資料の活用・収納の効率が向上するよう再整理を進めるとともに、適切な収集保管場所の確保に努めます。 を追加しました。	(4)郷土の文化財の保存と継承、活用と魅力の発信	25	博物館
33	施策の前段で資料が多く記載されていると、読みにくいこともあるので、資料編としてまとめて記載する方法もある。	今後の状況を確認しながら整理をしていきたいと思えます。	資料	75	全課
34	「(16)人権教育・多様性理解の推進」で、評価指標の「教職員の研修への参加」の令和3年度実績が入っていないが、LGBTに関する講座を実施し、多くの教職員が出席した実績があるので、その実績を反映してもらいたい。		(15)人権教育・多様性理解の推進	46	全課
35	学力や体力に関する目標値の設定は難しいと思うが、向上につながるようなものを設定し、5年のうちに進捗状況を確認した上で、下位計画で推進していただきたい。		(6)主体的・対話的で深い学びの推進ときめ細かな指導の充実 (21)学校体育・生涯スポーツの充実	30,31, 59,60	全課
36	評価指標の設定は難しい。例えば、「まなび」の柱、「(7)主体的・対話的で深い学びの推進ときめ細かな指導の充実」について、低学年学級支援員の配置、小学校心の教室相談支援員の配置、中学校学習支援員の配置、これら3つだけでよいのか、人数の目標はこれでよいのかなど。	計画の各ページに提示	すべての「まなびの柱」	18～	全課
37	「文化財保護補助金等交付件数」が評価指標として設定されているが、指標としてふさわしいものを再検討してほしい。		(4)郷土の文化財の保存と継承、活用と魅力の発信	25	全課
38	教育振興基本計画は教育の最上位計画なので、大きな柱のところで、アウトカム指標、どんなふうになったか、住民がどのように考えたかとか、どういう成果が上がったかというような評価指標について、アンケート調査などから数字を持ってきて設定し、下位計画で推進する指標を細かく設定するという方がよい気がする。		すべての「まなびの柱」	18～	全課
39	評価指標は定量的な目標だけでなく、定性的な目標の方がわかりやすい場合もあると思う。		すべての「まなびの柱」	18～	全課